

14 番（小川義昭議員）

おはようございます。

14 番、市政会、小川義昭です。

通告に従いまして、一般質問を行います。

山田市長におかれましては、去る 11 月 13 日の白山市長選挙において、無投票による 3 期目の当選を果たされました。山田市長は、初当選以来、2 期 8 年間にわたり対話と参加の基本姿勢を堅持され、地区公民館単位のまちづくり会議などを通じて、市民主体の政策をぶれることなく推進してこられました。

とりわけ、何事に対しても私心を感じさせず、市民に対しても、仕事に対しても公明正大かつ真摯に向き合ってこられた姿勢が市民の共感を得て、2018 年に続いて 2 回連続無投票という晴れやかな結果につながったことは言うまでもありません。この場をお借りしまして、改めて再選への祝意を表したいと思います。おめでとうございます。

山田市長は、今 12 月会議開催時の冒頭、「新たな任期においても、引き続き対話と参加を信条に市民本位の視点で市政運営に努め、市民の皆さんが住んでよかったと実感できる白山市づくりに全身全霊を傾け、職務に邁進する」と、3 期目の新たな 4 年間に向けての覚悟や心意気を述べられました。

私も常日頃から、市民が主役の市政にとって、福祉、医療、介護、子育て環境の充実には、全ての施策が帰結するゴールと言っても過言ではなく、それゆえに、改めて山田市長共々、このまちに住んでよかったと市民の心が一つになるまちづくりを進めていこうと肝に銘じております。

そこで、私の今会議の一般質問は、1 つ目は、「白山手取川ジオパーク」の世界認定、2 つ目は、本庁舎と公立松任石川中央病院間の土地利用方針その後の対応、3 つ目は、公立松任石川中央病院の増改築計画、大きく分けてこの 3 点について市の考え方をお伺いしたいと思います。

まず、「白山手取川ジオパーク」の世界認定についてであります。

本市の白山から手取川河口にかけての一带は、海拔ゼロメートルから 2,700 メートルに至る起伏に富んだ地形が広がっており、そこには優れた地質遺産や自然遺産、文化遺産が多数存在しています。

このような地域資源を再評価して、「ジオ（大地・地球）」という大きな視点で一帯の自然の価値を世界レベルで発信し、知名度アップの弾みにするために、本市は市内全域がエリア対象の自然公園、白山手取川ジオパークの世界ジオパーク認定を目指しています。

2011 年に、日本ジオパーク委員会から白山手取川ジオパークが日本ジオパークに認定され、その後、世界ジオパーク認定を目指して 2013 年と 2015 年に申請を行いました

が、いずれの年も「市民参画が不十分」などの指摘を受け、国内推薦が見送られ、そして、2020年に念願の世界認定の国内推薦を受けました。

その国内推薦を受け、10月6日から9日の4日間にかけて、国連教育科学文化機関（ユネスコ）による世界ジオパーク認定を検討するための現地審査が行われました。

ユネスコから2人の審査員が白山ろくの国天然記念物、桑島化石壁や手取川扇状地を見渡せる獅子吼高原などの白山手取川ジオスポット約20か所を視察し、市や専門家で作る白山手取川ジオパーク推進協議会、そして、推進協議会と連携協定を結ぶ団体や市民からのヒアリングが行われました。

振り返ってみますと、2013年と2015年にいずれも国内推薦を見送られたのに伴い、2017年10月、世界ジオパーク認定を目指すため、山田市長を団長とし、当時議長の私と同じく当時ジオパーク・エコパーク推進室長だった山下観光文化スポーツ部長らで構成された国際訪問団の視察の一環として、フランス・パリのユネスコ本部の世界ジオのキーマンとされる、パトリック・マッキーバー氏を訪問しました。

マッキーバー氏からは、世界認定のポイントとして、「ユネスコはジオパークの活動で防災を重要なテーマにしている。防災の取組強化が審査で白山の強みになる」など貴重な助言を受け、さらに、マッキーバー氏から強く勧められていた、世界ジオの先進地であるアイルランドのバレン・モハージオパークを視察しました。

年間150万人を呼び込むアイルランド一の名所、モハーの断崖は、このジオパークの最高の見どころであるとともに、地域の飲食店、宿泊所、土産店などが連携を取り、住民と一体となってジオツーリズム、ジオフード、イベントの共同開発や景観保全活動など、民間主導で地域を盛り上げていることを目の当たりにし、前回、地域住民の参画の弱さなどを指摘されて、国内推薦を見送られたことを考えますと、確かに現地の市民活動は、我々が羨むほどに充実していました。

以上のように、5年前の2017年10月のフランス・パリのユネスコ、アイルランドへの訪問は、山田市長にとっては次のない、3度目の世界認定の挑戦であり、世界認定に向けて並々ならぬ意気込みを見せておられました。

その結果、多くの有益なヒントを得ることができ、課題を精査・実行され、晴れて2020年、日本ジオパーク委員会からの国内推薦を受け、今回の世界認定の現地審査が実施されるに至ったものと考えられます。加えて、ユネスコを訪問し、SDGsをどの自治体よりもいち早く理解できたことも、山田市長はじめ、国際訪問団にとって大きな収穫でありました。

先週、ユネスコ世界ジオパークの専門会議で、現地審査などを基に審議が行われたとお聞きしており、審査内容は現時点ではまだ非公開とのことですが、承認されれば、来年5月開催予定のユネスコ執行委員会に推薦され、来春、正式に認定されるとのことです。認定となれば、国内10番目の世界ジオパークとなります。

ジオパークは貴重な地形や地質を持つ自然公園。住民による自然保護と教育や観光による活用も重視されており、広大な面積である本市全域をカバーするジオパークが「世界」の称号を得られれば、地域の一体感の醸成にもつながると思います。

私自身も世界認定に向けて関わりを持たせていただいた一員として強い思い入れがあります。ぜひとも白山手取川ジオパークが世界認定されることを確信し、世界認定がこれからの白山市のさらなる活性化に向けての起爆剤となり、また以前に一般質問いたしました本市の地方創生に向けてのシビックプライド、すなわち都市に対する市民の誇りの醸成となることを願ってやみません。

それでは、1点目の質問は、今ほど申しましたように2013年、2015年と世界認定における国内推薦で市民参画が不十分との指摘を受けたのに伴い、マッキーバー氏のアドバイスやアイルランドの先進地への視察などを基に世界認定に向け、市民への普及啓蒙活動や企業などとの連携に取り組まれてきたとのことですが、具体的な取組内容についてお伺いします。

また、防災の取組強化が重要であるとの貴重な助言を受けましたが、ジオパーク活動の中で防災という視点をどのように取り入れたのか、併せてお伺いいたします。